



武蔵野

埼玉大学図書館

2013年5月10日 14号



未来を拓く力をねがって 目次

| | |
|-----------------------|----------|
| ようこそ埼玉大学へ..... | 坂西友秀(1) |
| 新入生オリエンテーションについて..... | 早川雅代(4) |
| 新一年生のみなさんへ..... | 塚原伸治(5) |
| 内発的な出遭いの場としての図書館..... | 加地大介(6) |
| 「いなかもの」とロール・モデル..... | 禹 宗抗(7) |
| 関東甲信越・国立大学図書館協会総会... | 坂西友秀(8) |

| | |
|----------------------------|----------|
| 本の街、神田・神保町で映画を楽しむ..... | 細渕富夫(9) |
| 子どもと楽しむ絵本(けやきの窓)..... | 滝澤千夏(10) |
| 図書館増築のご案内とその展望..... | 坂西友秀(11) |
| 2013年度図書館会議委員..... | (13) |
| 図書館からのお知らせとお願い..... | (13) |
| 2012(H24)年度埼玉大学図書館の活動..... | (14) |
| 既刊「武蔵野」一覧..... | (15) |

未来を拓く力をねがって

ようこそ埼玉大学へ！

はじめに 御入学おめでとうございます。今では、ほとんどの学生が知りませんが、埼玉大学の構内では、桜花爛漫のこの時期、夕暮れには学生教職員が、生協脇の広場に思い思いにシートを敷き集い、桜を愛でるのが恒例でした。学生・教員・職員が一つになって、楽しい一時を過ごしたものです。今やこの「お花見」も過去のものになってしまいました。埼玉大学近隣の老若男女がふれ合い交流する新たな装いをもった「お花見」を再生させることも、Saitama local University の「粋な」試みの一つになるのではないのでしょうか。

視野を広げよう 大学入学と共に、受験勉強から解放され、未来に広がる大きな世界に期待を膨らませていることでしょう。大学は、みなさんのいろいろな可能性を実現する多様な入り口と「進路」を持っています。勉学、研究、サークル活動、友人関係、アルバイト、海外留学、ボランティア活動、社会活動、等々、他にもたくさんの選択肢と「道筋」があることでしょう。

みなさんそれぞれが目指してきた専門・専攻領域一つをとっても、一方では、一つの領域はさらに細分化され、今までに想像もしなかった未知の領域へと誘（いざな）

てくれるでしょう。他方で、特定の専門分野であっても、多くの分野と密接に関連し、相互に不可分の関わりを持っています。「大腸菌」(ジンマー・カール, 2009, 大腸菌, NHK出版)、一部は、食中毒など食品衛生に関わり、私たちが日常よく耳にするものです。一方、この大腸菌は、DNAの変化や進化論の解明・実証に大きな役割を果たしている研究対象でもあり、一つの専門が多領域に跨がることを示す一例でしょう。

このことは、人文、社会、自然、芸術、等、いずれの専門領域にもあてはまることではないでしょうか。領域相互の関わりも明確に区分しきれるものではなく、人文・社会科学は自然科学の成果を反映し、自然科学もまた人文・社会科学的な視点・発想を取り込み展開されているのです。

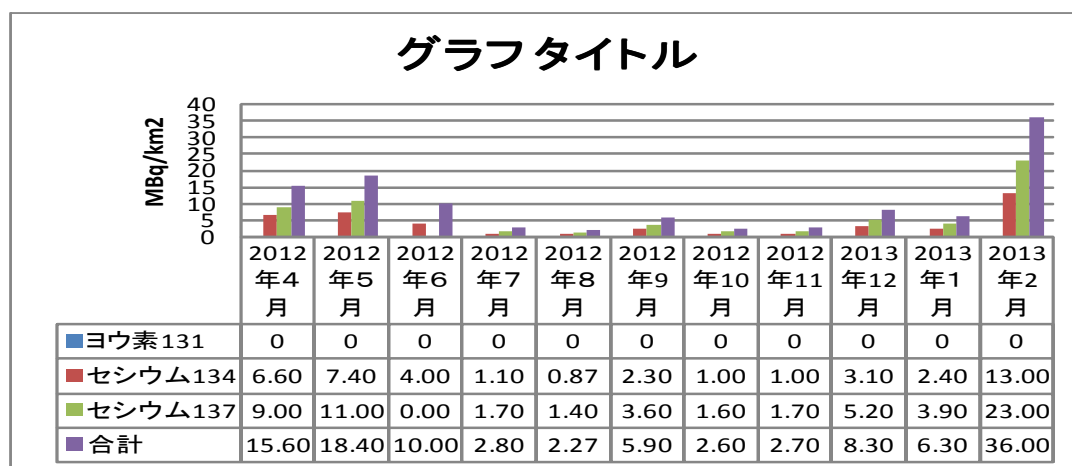
今日、大学の教育・研究活動は、ますます広がりを持ち、国際化しています。大学構内でも、アジアや欧米に限らず世界各地からの留学生が学び生活しています。身近な国際交流を心がけて欲しいと思います。大学では、語学研修や海外留学の機会も提供されていますし、提携校への交換留学の制度も用意されています。海外との交流、多様な異文化交流を通して、視野を世界に広げてください。国際社会の中の日本を深く考える契機を、大学生活の中で積極的に掘んで欲しいと思います。埼玉大学は、「グ

ローバル人材育成」に力を注いでいます。

大学で何を学ぶか 大学が持つ意味・意義は人によって違います。希望した専門を深め、勉学に努めることは、誰にとっても基本的な課題です。並行して、専攻分野を超えて、興味の向くままに好きなことに傾倒・没頭することができるのも大学生の特権といえるでしょう。いわゆる教養を幅広く身につけることが可能で、これも大学の大きな魅力の一つでしょう。

教養とは、「精神文化一般に対する理解と知識をもち、人間的諸能力が全体的調和的に発達している状態。…そのような状態に教え導くことをさすこともある」(ブリタニカ国際大百科事典)。あるいは、「学問、幅広い知識、精神の修養などを通して得られる創造的活力や心の豊かさ、物事に対する理解力、また、その手段としての学問・芸術・宗教などの精神活動。社会生活を営む上で必要な文化に関する広い知識」を指しています(デジタル大辞泉)。専門化し機能化する現代の社会にあって、物事を広い視野から総合的に捉え、自ら判断するためには、豊かな「教養」が必要になります。埼玉大学は、総合大学です。スポーツ・芸術から人文・社会・自然科学まで多岐にわたる教育・研究に携わる人々がいます。広く教養を積むには格好の環境にあるといえます。あなたは何を学びますか。

表 1 埼玉県月間の放射性物質降下量の測定値(埼玉県公表値より作成)



埼玉大学の教員は、どのような教育・研究を、社会活動をしているのか、調べてみてはいかがですか。大学HPに「研究者総覧」の項目があり、各教員の活動情報が掲載されています。是非のぞいてみて下さい。また、図書館の項目から、図書館HPに入ると、「リポジトリ」の項があります。本学教員の論文や図書館ニュースが掲載されています。こちらもご活用ください。

大学では、知的な活動に大きな重きが置かれることは今も昔も変わりありません。幅広い教養と共に、専門知識・技術の習得とそれらの活用能力の獲得は、みなさんの学修の核をなすものです。大学で修得した諸能力を駆使して、一人ひとりが社会に対処・対応することもまた極めて重要です。東日本大震災・福島原発事故から2年が経ちましたが、未解決・解の見つからない問題は山積しています（武蔵野第8号, 11号）。知的に思考力を働かせ、事実に基づき筋道立てて客観的に論証・実証する姿勢はとても大切です。表1は過去1年間に埼玉県で測定された放射性物質（セシウム134, 137）の「定時降下物測定結果」をグラフ化したものです。みなさんはこの結果をどのように見て、理解し、解釈しますか。

事実に基づく思考の重要性を示す例をもう一つあげましょう。1952年4月28日、サンフランシスコ講和条約が発効しました。政府はこの日を「主権回復の日」として、憲政記念館で「主権回復・国際社会復帰を記念する式典」をこの4月28日に開催しました。安倍首相は、式辞で「講和条約の発効によって主権を取り戻し、日本を日本人自身のものとした日だった。…未来へ向かって希望と決意を新たにする日にしたい」と述べています（沖縄タイムス 2013年4月29日）。しかし、条約発効と同時に、奄美、小笠原、沖縄の施政権は日本から切り離されました。4月29日の沖縄タイムスの一面には「4・28式典 1万人抗議」、「沖縄捨て石のまま」、「屈辱の日大会に結集」の大見出しが載っています。琉球新報は、「沖縄

切り捨て再び」、「国の在り方問う」と報じ、新報小学生新聞では『「4・28」なぜ「屈辱の日？」、「沖縄 切り離された」と解説記事の特集しています（琉球新報, 2013年4月29日）。この日は日本・沖縄の人々にとって「屈辱の日」以外の何物でもないのです。歴史を事実のままに理解することが求められ、私たち一人ひとりの考えと行動が問われているのです。客観的にデータ・資料を分析・考察し、未来を拓く洞察を得ることの重要性を示すものです。埼玉大学は、みなさんの自律的・自発的な学習・学修を今まで以上に支援するため、図書館を増築する予定です。ご期待ください。

本紙のご紹介 第14号は、4人の先生から新入生向けにメッセージをいただきました。塚原伸治先生（理工学研究科准教授・神経内分泌学）は、大学時代に勉強と部活動を両立させる中で、一つのことに集中することのすばらしさを教え、気づかせてくれます。加地大介先生（教養学部教授・哲学）には、研究者の道に進む契機となった恩師の教えから、出遭いが人の人生にいかに関わるものであるかを語っていただきました。禹宗^{ユウ}抗先生（経済学部教授・労使関係論）は、ゼミ生との語らいから、自分が目指すことを明確にするためにも、ロール・モデルを見つけることを奨めています。細淵富夫先生（教育学部教授・障害児教育学）は、本の町神田神保町に「昭和」の風景を上映する珍しい映画館があり、鑑賞を勧めています。「けやきの窓」では、滝澤千夏さん（図書館情報サービス担当係）が、子どもと楽しむ絵本の魅力を生き生きと紹介しています。沢山の話題を御提供いただきました。楽しく読んでみてください。

図書館からは、5月開催の「新入生オリエンテーション」、図書館増築のお知らせ、今年度の図書館会議委員のみなさんのご紹介、以上3つの記事を掲載いたしました。

（図書館長 坂西友秀）

新入生 図書館オリエンテーションについて

図書館を、身近な学習・研究の場、大学の授業の理解を深める場として利用していただくために、新入生図書館オリエンテーションを開催します。今年度の開催日程は、5月13日から17日の間です。

オリエンテーションでは、図書館を有効に活用するための基本的な使い方について説明します。館内を見て回る、ツアーも行います。

新入生でない方も、ご自由にご参加ください。皆様のご来場をお待ちしています。

| | | |
|-------|-------------------|--------|
| 日 程 : | 5月13日(月)～5月17日(金) | 毎日2回開催 |
| 第1回 | 13:30～14:00(説明) | |
| | 14:00～14:20(ツアー) | |
| 第2回 | 15:00～15:30(説明) | |
| | 15:30～15:50(ツアー) | |
| 場 所 | グループ学習室(第3閲覧室内) | |



説明内容

- 1 利用案内
- 2 開館日程
- 3 資料の探し方
- 4 その他のサービス

館内見学

閲覧室や図書の配架場所を回るツアー



新入生の方は、お配りしました
「埼玉大学図書館利用案内2013年版」を
お持ちください。

(図書館・情報サービス担当係 早川雅代)

新一年生の皆さんへ



塚原伸治
(理学部生体制御学科・准教授 神経内分泌学)



新一年生の皆さん、ご入学おめでとうございます。4月から新生活を迎える皆さんには、希望や不安など色々な思いが入り交じっていることでしょう。これから始まる大学生活が皆さんにとって実りあるものにならんことを心よりお祈りします。

昔話をして恐縮ですが、私は約20年前に大学に入学し、4年間を過ごしました。その間、大学での勉学の他に体育会系の部活動に汗を流した思い出があります。私はボート部に所属していました。当時、私は早朝練習を行った後、大学に向かい、授業を終えると再びボートを漕ぐという生活を数年間おくりました。このようなタイトなスケジュールをこなすため、部員は練習場近くの合宿所で寝泊まりしていました。私には授業とボートの他に充てる時間が殆どなく、色々な楽しい場所に足を運べる友人たちを羨ましく思ったものです。今思えば、大学生活の中で苦しくても何かに打ち込んだことが良い経験になったと感ずることが出来ます。奇しくも、今年から埼玉大学ボート部の顧問を拝命することになりました。ボートには何かしら縁があるようです。大学4年間を過ごした後、私は大学院に進学しました。大学院には2年間の修士課程と3年間の博士課程がありますが、その5

年間を研究に費やしました。研究内容は、ホルモンを分泌する内分泌器官を制御する脳のメカニズムに関するものでしたが、今でも私はこの研究に取り組んでいます。

さて、皆さんは何のために大学に入学したのでしょうか？興味のある分野の学問を追究するため、将来は博士号を取得して研究者の道を歩みたい、好きな事に打ち込む時間がほしい、など色々な目的や動機があるでしょう。目的や動機は個人によって違ってくるのは当然のことです。しかしながら、何となく入学できたから入学したとか、目的と動機がまだはっきりとしない人たちは、何のために入学したのかを今一度考えてみてはどうでしょうか。ただ何となくやり過ごすには大学生活の4年間は長いことでしょう。是非、大学生活の中でやり甲斐を感じる物事を見出し、有意義な時間を過ごしてほしいと思います。皆さんのこれからの活躍に期待しています。

内発的な出遭いの場としての図書館

加地 大介
(教養学部教養学科・教授 哲学)

ひとは、日々様々な出遭いを経験しながらその人生行路を歩いていくわけですが、その中でも、ちょうど梔子の支点のように人生の方向を大きく振り向ける大きな出遭いが、何度かあるのではないのでしょうか。私の場合、いま振り返ってみると、それはやはり何といっても大学時代の出遭いであったと思います。これは、私が結果として研究職に就いているという、必ずしも一般的とはいえない事情によるところも大きいでしょう。しかしこの時期は、大学生となった皆さんの多くにとっても、就職という重大な選択を行う直前の期間であることを思えば、後々私と同様の想いを抱くこととなる確率はきっと高いことでしょう。

したがって、皆さんにはこの大学時代にできるだけ多様な出遭いを経験してほしいのですが、出遭いというものは、どちらかと言えば外発的・受動的なタイプと、より内発的・能動的なタイプのものに分けられるように思います。例えばいわゆる「恩師」との出遭いなどは、前者である場合が多いでしょう。私は現在、「分析哲学」と呼ばれる現代哲学のスタイルで「形而上学」と呼ばれる哲学の一分野を専攻しているのですが、私自身は大学に入るまで分析哲学というものをまったく知りませんでした。私がその流れの中に招き入れられたのは、私が所属した「科学史・科学哲学分科」という学科において哲学分野の中心にいらっしゃったのがたまたま大森莊蔵という先生であ

ったことに大きく依存しています。現時点では、分析哲学というものがない世界で哲学研究者となっている自分はまったく想像できませんので、その創始者であるバートランド・ラッセルとともに、大森先生（ならびにその後の恩師たち）にはいくら感謝してもし切れません。

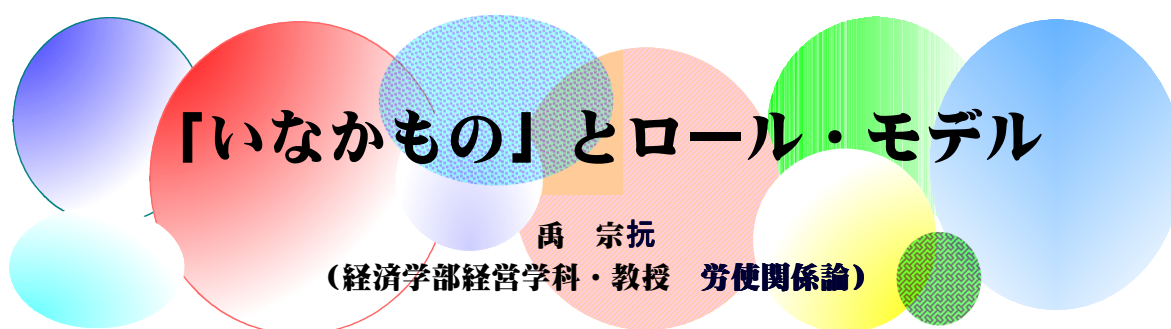
一方、私の大学時代には、分析哲学の中で形而上学という分野の評判は惨憺たるものでした。それは無意味な言説の羅列であるとか、形而上学というものを拒否することこそが分析哲学の特徴であるなどと、「形而上学」という言葉は悪しき哲学の代名詞のように用いられていました。にもかかわらず、私が現在その形而上学を専門分野とすることになったひとつの大きな要因は、リチャード・テイラーというアメリカの哲学者の著作の訳書である『哲学入門』（培風館、吉田夏彦 訳）という書物との出遭いでした。大学に入りたての頃、図書館でふと手にして読んでみたところ、妙に心に引っかかるものがありました。その想いはその後も持続し、その中で取り扱われていたいくつかのテーマが、現時点でも私の中心的研究テーマの一部となっています。

その『哲学入門』という訳書の原題が実は'Metaphysics'という「形而上学」そのものであることに気づいたのは、初めて訳書を手にした後数年たってからでした。そのような「意識」がなされていたひとつの背景は、先ほど述べたような形而上学の悪評だったのではないかと、ひ

そかに勘ぐっています。さらに、この埼玉大学に就職してから何年もたってようやく、テーラーという哲学者が、分析哲学者ではありながら、その主流からはやや外れているひとつの流れの中で研究を展開していた哲学者であったのだ、ということに悟ったのです。

いまにして言えるのですが、図書館のとあるコーナーの多数の書籍の中から何もわからないまま一冊を自ら選び取り、よくわからないままその内容になぜか心惹かれてそれを読み進める、というような経験ができる局面は、実は人生の中で意外に限られています。そのような、結

果として「主体的」「内発的」と言える選択には、無知だからこそ行えるという部分もあり、特に情報過多の昨今においては、選択がたちまち外からの影響に左右されていくことになります。それは必ずしも悪いことではないのですが、自分の進路に迷いが生じたときなどには、どういう経緯であれ自分の心から発する何かにもとづいて選択したと言えるものには不思議と自信が持てるものです。そのような選択の可能性に満ちた出逢いの場のひとつとして、時おり図書館を彷徨ってみてはいかがでしょうか。



つい最近のことである。ゼミ生の一人と昼食をとった時のこと。楽しく会話を交わしているうちに、次のような話題に及んだ。

「(禹) ところで、君はどこの出身だったわけ？」

「(A) ○○県です。」

「(禹) なに？ そんなにいなかものだったの？」
(二人とも苦笑い)

「(禹) それで改めて聞くけど、何でこんなに遠いところのうちの大学にまで来

たわけ？」

「(A) 首都圏に出てみたかったです。だって、自分のまちには何もなかったですから。」

「(禹) そう？ で、首都圏に進出してみたら、どうだった？」

「(A) そうですね。最初は確かにカルチャー・ショックみたいなものがありました。でも、ちょっと付き合ってみたら、大したものでもないですね、この首都圏というのは。」

それで、このゼミ生は、大したもので

もない首都圏を後ろにして、新学期から海外留学に出て行ったのである。

私はこの人の気持ちがよくわかる。私自身いなかものであるからだ。「何もなかった」いなかの故郷を出て、首都のソウルに行き（私は韓国出身である）、さらに「大したものでもない」ソウルを捨て、東京に海外留学したのである。

このようなヴァイタリティー＝生命力は、いなかものの長所だ。普段エンジョイするものが何もなかった分、エンジョイできる環境・対象を求めて、自分のエネルギーを燃やす。

ただし、いなかものには短所もある。方向性が定まらず、しょっちゅう右へ行ったり左へ行ったりするのがそれである。実際、上記のゼミ生は、私のゼミに入って以降も、前に進んだり後ろに下がったりを繰り返した。私自身も昔、大学には入ったものの、「大学生って何者か」を知らずに、ずいぶん放浪した記憶がある。

では、なぜさまようのか。その大きな理由の一つは、自分に相応しいロール・モデルが見つからないためだと思われる。前記のゼミ生A君は、お父さんが農作業に携わっていて、それも無口なせいで、自分の大学生活に関して何も言ってくれないと、こぼしていた。これは、私の場合も同じで、父は、私のキャンパス・ライフに関して、口を挟むことはほとんどなかった。それは、一方では、父の

子育て思想の反映で、子といえども自由な人格の持ち主だから、悠長に見守ってやるということだっただろうと思われる。しかし、他方では、父だって当時としてはエリートの方で、大学を出ていたものの、ソウル大学という名門大学に進学した自分の息子に対して、アドバイスできるものがたくさんはなかったことの反映かもしれないと思われる。いずれにせよ、いなかものは大体、自分の親よりは少し進んでいるゆえ、自分にとってのロール・モデルが容易には見つからず、苦勞をするのである。

であればこそ、いなかものにとって、大学生活のスタートを切るにあたって大切なことは、自分のロール・モデルを探すことである。この際、そのロール・モデルは、必ずしも遠いところにいるわけではない。友達、先輩・後輩、師匠、バイト先の古参、ボランティア活動で出会った人々など、対象は多様であり得る。そのなかから、ロール・モデルを探し出せる自分の意欲と能力がむしろ問われるといえよう。

最後に一言。もしかして、首都圏で育ったから自分はいなかものでないと、高をくくっている人はいないでしょうね。東京だって「辺境」かもしれませんよ。だからみなさん、いなかものとして有する潜在力を、ロール・モデルの発見を通して、フルに引き出すための努力を傾けてくださいね。

「関東甲信越・国立大学図書館協会総会」が開かれました

4月18日(木)、湘南国際村センターで関東甲信越地区の国立大学図書館協会総会が開かれました。幹事校総合研究大学院大学の開催でした。注目の話題は、今年度から博士論文の審査結果と博士論文を各大学で公表することが義務づけられることについてでした。リポジトリを利用して行います。非公表も特別事情があれば認められますが、医学・自然科学系の研究を中心に、公表には検討すべき課題があることが報告されました。埼玉大学も、全学的検討と公表の統一基準を早急に規定しなければなりません。

(図書館長 坂西友秀)

本の街、神田・神保町で映画を楽しむ

細渕富夫

(教育学部・教授 障害児教育学)

本の街、神田・神保町の裏通りに不思議な形をした映画館がある。神保町シアタービルである。今でこそここは、昭和の懐かしい映画を中心に上映する映画館として認知されているが、当初は、「ポケモン」などのアニメ映画を中心に運営する予定だったという。ところが、評判となったのはアニメではなく、レイトショーとして実験的に上映した「川本三郎編 映画の昭和雑貨店 こどもたちのいた風景」の方だった。昭和20～30年代の日本映画に描かれた暮らしを愛し、ノスタルジーを抱く人が実はたくさんいたようだ。2年ほど前の夏に同館の「戦争と文学」という企画のなかで、『本日休診』（1952年）という映画を観た。原作は井伏鱒二である。「自由学校(1951 渋谷実)」の渋谷実が監督に当たっている。主な出演者としては、鶴田浩二、淡島千景、佐田啓二、三國連太郎、岸恵子、といった面々である。

あらすじは、こうだ。戦争で一人息子を失った三雲医院の八春先生が甥の伍助を院長に迎え、戦後再出発してから丸一年の記念日、伍助はこの日看護婦たちと温泉へ出かけて行き、三雲医院は「本日休診」。八春先生はこの機会にゆっくり昼寝でもと思っていた矢先、婆やのお京の息子勇作が例の発作を起こしたという。勇作は元中尉で、長い軍隊生活の悪夢にまだ折々なやまされ、八春先生はそのたびに部隊長となって号令、部下の気を鎮めてやらなければならないのだっ

た。本日休診にもかかわらず、いろいろな患者が運び込まれてくる。砂礫船の船頭のお産に立ち会ったり、ヤクザが指をつめるのに麻酔を打てと受診に来たり、兵隊服の男が盲腸患者をかつぎ込んで来て手術を強要したり……。『本日休診』は、医師の多忙な一日を通して、戦争の影をひきずりながら懸命に生きる庶民生活を描いたものだった。

この映画は、上映中、幾度も笑いが起こるほど娯楽性にとんだ映画ではあったが、私にはそこに描かれた終戦直後の市井の人々の暮らしがとても興味深いものだった。長屋の狭い一室でおとなが三人で寝起きしていたり、使われなくなった貨車の中で生活する子たくさん家族がいたり、あるいは砂利運搬用の船で生活する水上生活者一家など、医療費を払えない貧しい庶民の生活が描かれていた。

とりわけ観客の笑いを誘っていたのは、戦争で精神を病んでしまった元中尉の奇行であった。彼は今なお戦地にいると思い込んでおり、ケガをした雁を航空兵と思い込んで医者診せたり、誰彼かまわず号令をかけ、命令を下したりする。状況が理解できない通行人が無視すると殴りつける、もらった饅頭を「恩賜の菓子」と恭しく扱う、等々。この元中尉・勇作を演じていたのが、先日亡くなった三國連太郎である。勇作が暴れて母の言うことを聞かなくなったときは、医師が部隊長となって「敵前迂回作戦」を下命する。すると乱暴な行動がピタッと収ま

る。そこでタイミングよく隣家のおばちゃんが消灯ラッパの物まねをすれば、さっと帰隊（帰宅）する。

彼はいわゆる「戦争神経症」兵士である。私は日本陸軍における戦争神経症患者のカルテ（終戦時の陸軍による焼却命令に抗して、医師が土中に隠した病床日誌）を調べているが、アジア・太平洋戦争時に多くの日本兵が戦争神経症に罹患した事実は、あまり知られていないと思っていた。しかし、こういう形で映画に登場していたことに、正直驚いた。戦争神経症は、戦場に狩り出された一青年が、前線で砲弾、銃撃にさらされる中で発症

するものだが、周囲が「狂人」として押さえ込めば、さらに異常行動がエスカレートする。映画の中の医師やおばちゃんのように、庶民は生活の中で共存可能で自然な対応を見つけ出していたのかもしれない。この映画は、パニックが収まった元中尉の足下で、老いた母がしがみついて泣いている場面で終わる。元中尉の奇行を笑う観客のなかで、この母の悲しみ、戦争で取り返しのつかないところの傷を負った家族の苦しみ、くやしさに気づいた観客は、はたして何人いただろうか。

けやきの窓

♪ 子どもと楽しむ絵本 ♪



★ 滝澤千夏 ★

（図書館・情報サービス担当係）



図書館で機関リポジトリSUCRAの担当をしている滝澤です。SUCRAへの登録依頼があったら著作権等を確認し、調整したうえで登録・公開する業務や、SUCRAのシステム関係の業務を主に行っています。

そんな私ですが、家に帰れば4歳と1歳の子の母として毎日奮闘しています。図書館員としては恥ずかしながら、日々の子育てに追われ、自分の本をじっくり読む時間がなくなってしまいましたが、子どもたちの絵本がなかなか面白いので、その中のいくつかをご紹介します。

まず1つ目はかがくいひろし作『だるまさんが』です。この本は言葉の響きとだるまさんの動きが面白く、読んであげながらだるまさんの動きに合わせて体を動かすと、小さい子どもは夢中になります。子どもが笑ってくれるので親はついつい張り切ってしまいがちですが、息が切れてしまいますのでほ

どほどに。

2つ目は小風さち作 山口マオ絵『わにわにのおふろ』です。お風呂好きなワニのわにわにがお風呂に入る話ですが、無表情なわにわにがおもちゃで遊んだり歌を歌ったり、お風呂を満喫している様子がシュールで楽しいです。わにわにが移動するときは「ずる、ぺた」音が鳴ったり、体を拭くときは寝転がらなければいけなかったり、ときおり見せるワニゆえのぎこちないしぐさに、「そこはリアルか！」と突っ込んでしまいたくなります。

3つ目は西村敏雄作『どうぶつサーカスはじまるよ』です。この作者の描く動物は、何ともいえない味のある表情で、見ているだけで笑みがこぼれます。最後にブタが空中ブランコをするときに叫ぶ一言で、吹き出してしまうこと請け合いです。

今回ご紹介した絵本は、我が家の子供はもちろん大好きですが、大人の私が読んでも楽しいものばかりです。大人になるとなかなか絵本を読むことがなくなるかと思いますが、機会があったら読んでみてください。

図書館増築のお知らせとその展望

図書館が増築されます！！



図1 図書館増築棟・イメージ図（本学施設課提供）

図書館は、現在の入り口階段部分のスペースに、新たに「自主的で自由な学習」を促進するために新館を増築します。工事は今年11月から来年9月までを予定しています（図1）。3階建ての建物で、蔵書スペースはなく、少人数で会話を楽しんだり、個別に自学自習したり、グループで討論したりする場所を提供するものです。

図書館の在り方と利用の仕方は、その国の高等教育の位置づけと制度設計、さらには実祭に実施されるカリキュラムと教育内容により大きく異なります。昨年3月にヘルシンキ

大学の図書館を訪れました。Pic.1 からPic.3 は図書館内部の様子です。新しく建築され



Pic. 1 ラウンジ風閲覧スペース



Pic. 2 PC利用者用カウンター

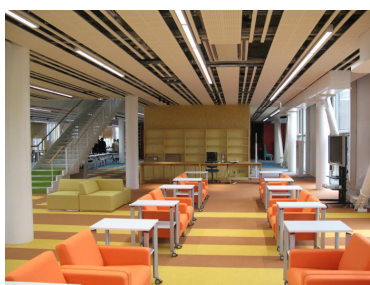


Pic.3 小グループ学習室

た館は、デザインも斬新で、入り口の1階フロアーは広く、入館者に開放感を与えます。実際、入館チェックは全くなく自由に入ることができます。1階から最上階まで階段を中心に巨大な吹き抜け空間になっています。各階にはソファのあるラウンジ風の広い空間があり(Pic.1)、多くの学生が思い思いに本を読んでいました。各階の上がり口には楕円形の長大なPC利用者用のカウンターがあり(Pic.2)、友人と会話する人、パソコンを操作す



Pic. 4 国際交流・語学スペース



Pic.5 あるフリースペース



Pic.6 学習スペース

る人、それぞれ思い思いに利用をしていました。Pic.3は、小グループ向けの個室学習スペースです。室内には、コピー機も設置されています。書架の間にも大きなテーブルがあり、利用者は、探し出した書籍・文献を手にもその場ですぐに作業に取りかかれるようになっていました。大学図書館の構成・構造は、今日本の多くの大学が「学生の自主的な学習」を支援するために構想しているものと類似したものでした。というより、日本の図書館が、その空間的構造と機能を欧米諸国の図書館に倣っているのが実情であろうと思いました。

千葉大学が昨年新館を増築し、今年度は新潟大学 (Pic.4-Pic6) が改修・増築を完了しました。両館館内を見学させていただき、いずれも、全体的に自由に使える空間と機能を特定しないスペースを設けることに大きな狙いがあると感じました。千葉大学には映像教材やデジタル教材を開発したり、授業に利用したりできるルームがいくつも用意されています。新潟大学では、TAなどの学生の力を利用者への知的サービス・支援に活用し(Pic4・デスクは指導TA用)、教員による授業と図書館との「連携」「コラボレーション」の進展を期待しているようです。学生が自由に使える広々とした空間が、「贅沢」と思えるほど至る所に用意されていました(Pic. 5)。ここでも書架の間に机と椅子が置かれ、学習を進める上で使いやすくなるよう空間が設計されていました(Pic. 6)。「図書館を活用した授業」と学生の自発的学習を促す「自由空間・共有空間」、この二つがキーワードでしょうか。

(図書館長 坂西友秀)

2013年度 図書館会議委員名簿

2013（H25）年度図書館会議委員のみなさまです。よろしくお願い申し上げます。

埼玉大学図書館会議委員名簿（平成25年度）

平成25年4月1日現在

| 所属・職名 | 氏名 | 所属・職名 | 氏名 |
|----------|-------|--------------------|--------|
| 図書館長 | 坂西 友秀 | 教育学部准教授 | 萩生田 伸子 |
| 教養学部副学部長 | 加地 大介 | 経済学部教授 | 藤田 総平 |
| 教育学部副学部長 | 細渕 富夫 | 理工学研究科准教授 （理学部） | 西山 佳孝 |
| 経済学部副学部長 | 禹 宗抗 | 理工学研究科准教授 （工学部） | 山根 敏 |
| 理学部副学部長 | 鈴木 健 | 教育機構副機構長 | 米山 利二 |
| 工学部副学部長 | 池口 徹 | 研究協力部長 | 大城 功 |
| 教養学部教授 | 小林 亜子 | 図書情報課長 | 肥土 広康 |

図書館からの お知らせとお願い

図書館への入館と
利用方法が変わります。
2013年4月1日からです。

新入館システム

図書館への入館と
利用には、みなさんの
学生証か図書館利用証が
必要になります。教職員の方は、
図書館利用証（バーコード付き）
が必要になります。

返却期限が過ぎた
図書館の本はありませんか？
返却期限の御確認をお願いします。

図書返却のお願い

図書は大学の
大切な財産
です。

教員，学生のみなさん！
よろしくお願いいたします！

2012年度 埼玉大学図書館の活動

平成25年5月8日現在

◎学外会関係

国立大学図書館会議

- 24. 6. 21 第59回国立大学図書館協会総会
(神戸大学出光佐三記念六甲台講堂)
- 24. 6. 22 第8回国立大学図書館協会マネ
ジメント・セミナー参加 (神戸大学出光
佐三記念六甲台講堂)

関東甲信越地区国立大学図書館協会

- 24. 4. 23 平成24年度関東甲信越地区国立
大学図書館協会総会 (群馬大学)
- 24. 12. 7 第45回関東甲信越地区国立大学
図書館協会事務(部・課)長会議 (茨城大
学)

埼玉県大学・短期大学図書館協議会

- 24. 5. 18 埼玉県大学・短期大学図書館協
議会 (SALA) 幹事会 (聖学院大学)
- 24. 5. 29 埼玉県大学・短期大学図書館協
議会 (SALA) 第25回総会 (聖学院大学)
- 24. 7. 5 埼玉県大学・短期大学図書館協
議会 (SALA) 幹事会 (十文字学園女子大
学)
- 24. 11. 6 埼玉県大学・短期大学図書館協
議会 (SALA) 幹事会 (文教大学)
- 24. 11. 14 第24回埼玉県大学・短期大学
図書館協議会 (SALA) 研修会 (文教大学)
- 25. 3. 27 埼玉県大学・短期大学図書館協
議会 (SALA) 幹事会 (跡見学園女子大学)

埼玉県図書館協会

- 24. 5. 23 平成24年度埼玉県図書館協会理
事会 (埼玉会館)
- 24. 6. 13 平成24年度埼玉県図書館協会総
会 (埼玉会館)
- 24. 6. 15 平成24年度第1回図書館協力担
当者会 (全体会) (さいたま文学館)
- 24. 12. 2 図書館と県民のつどい埼玉2012
(桶川市民ホール・さいたま文学館)
- 24. 12. 14 平成24年度第2回図書館協力担
当者会 (全体会) (埼玉県立近代美術館)
- 25. 3. 6 平成24年度埼玉県図書館協会常
任理事会 (埼玉会館)

◎学内会関係

図書館会議

- 24. 7. 13 埼玉大学図書館会議 (平成24年
度第1回)
- 24. 10. 29 埼玉大学図書館会議 (平成24年
度第2回)
- 25. 2. 7 埼玉大学図書館会議 (平成24年
度第3回)
- 25. 3. 18 埼玉大学図書館会議 (平成24年
度(臨時))

館員連絡会

- 24. 4. 5 図書館員連絡会 (平成24年度第
1回)
- 24. 4. 19 図書館員連絡会 (平成24年度第
2回)
- 24. 5. 1 図書館員連絡会 (平成24年度第
3回)
- 24. 5. 17 図書館員連絡会 (平成24年度第
4回)
- 24. 6. 7 図書館員連絡会 (平成24年度第
5回)
- 24. 6. 29 図書館員連絡会 (平成24年度第
6回)
- 24. 7. 27 図書館員連絡会 (平成24年度第
7回)
- 24. 8. 31 図書館員連絡会 (平成24年度第
8回)
- 24. 9. 21 図書館員連絡会 (平成24年度第
9回)
- 24. 10. 18 図書館員連絡会 (平成24年度第
10回)
- 24. 11. 12 図書館員連絡会 (平成24年度第
11回)
- 24. 12. 6 図書館員連絡会 (平成24年度第
12回)
- 24. 12. 20 図書館員連絡会 (平成24年度第
13回)
- 25. 1. 18 図書館員連絡会 (平成24年度第
14回)
- 25. 1. 31 図書館員連絡会 (平成24年度第
15回)
- 25. 2. 21 図書館員連絡会 (平成24年度第
16回)
- 25. 3. 13 図書館員連絡会 (平成24年度第
17回)

◎その他

研修・シンポジウム等関係

- 24. 5. 16～18 平成24年度第1回目録シス
テム講習会受講 (国立情報学研究所)
- 24. 6. 12～13 平成23年度CSI委託事業報告
交流会参加 (国立情報学研究所)
- 24. 8. 8～10 平成24年度図書館等職員著
作権実務講習会受講 (東京大学)
- 25. 1. 10 共同リポジトリサービスに係
る説明会参加 (国立情報学研究所)

図書館事業等

- 24. 4. 16～20 平成24年度新入生向け図書
館オリエンテーション実施
- 24. 5. 24 平成24年度図書館オリエ
ンテーション実施

既刊「武蔵野」一覧

埼玉大学図書館報「武蔵野」は、図書館の動向や皆様のご意見などを紹介する小冊子です。「むさしの」の後継誌として、2009年6月から刊行しています。図書館HPからアクセスしてご覧ください。

1号(2009.6刊)

- ・「武蔵野」創刊(図書館長:坂西友秀)
- ・図書館ニュースの発刊によせて(総合情報基盤機構長:川橋正昭)
- ・旧制浦高記念展示室の完成を願って(旧制浦高同窓会常務理事:上田治三郎)
- ・館員通信(利用サービス係長:小野寺伸)

2号(2009.8刊)

- ・SUCRAについて(専門員:村田 輝)
- ・SUCRA(機関リポジトリ)で利用の多い文献トップ30

3号(2009.10刊)

- ・大学図書館に望むこと(埼玉県立白岡高等学校・教諭:若海由美)
- ・こんな図書サービスがあればいいな～(文化科学研究科博士課程:李芝善)
- ・けやきの窓(理工学研究科長:水谷忠良)
- ・館員通信(元利用サービス係:白本清香)

4号(2010.2刊)

- ・歴史史料デジタル化の現状:過去の記録は誰のものか(教育学部准教授:鈴木道也)
- ・けやきの窓:私の推

薦図書(経済学部長:伊藤修)

- ・「図書館と県民のつどい埼玉2009」:「デカンショ」と「ファーブル」(利用サービス係長:小野寺伸)
- ・「埼玉県大学・短期大学図書館協議会」研修会報告(SALA広報担当:湊伸子)
- ・ホームページがリニューアルされます!(工学部4年 渡邊雄)

5号(2010.4刊)

- ・＜フレッシュマン特集号＞
- ・図書館紹介(図書館長:坂西友秀)
- ・図書館オリエンテーション
- ・図書館発見「留学生・留学希望者にうれしいニュース」
- ・「グループ学習室新設」
- ・「官立浦和高等学校記念資料室」
- ・「デカンショ」によせて(埼玉大学教養学部准教授・哲学:高橋克也)

- ・子どもと図書・文化「埼玉県立図書館の児童サービスについて(埼玉県立久喜図書館:山元明美)」

「そよかぜを知っていますか(そよかぜ保育室:橋本慶子)」

- ・けやきの窓(教養学部長/教授:高木英至)

6号(2010.7刊)

- ・＜埼玉大学エコ特集＞
- ・AGRICULTURE(図書館長:坂西友秀)
- ・埼玉大学から発信!有機農業でつながる輪(経済科学研究科博士前期課程:堀合知子)
- ・有機農業に興味を持たれた方へ(経済科学研究科博士前期課程:堀合知子)

- ・有機農業に出会って(経済科学研究科1年:山本仁)
- ・お薦めの本(経済科学研究科1年:山本仁)
- ・埼玉大学有機農業研究会の展望(経済科学研究科:有坂昌平)

- ・本の紹介(経済科学研究科:有坂昌平)
- ・日本大学文理学部図書館研修(図書資料係:早川雅代)
- ・けやきの窓(教育学部長/教授:山口和孝)
- ・全国国立大学図書

館協会総会報告(図書館長:坂西友秀)

7号(2010.11刊)

- ・＜特集 教育・研究と書籍＞
- ・はじめに(図書館長:坂西友秀)
- ・過疎という問題に何処よりも早く直面した早川南小学校について(山梨県早川南小学校校長:村松秀樹)
- ・絵本を用いた活動が自閉症児に与える効果について(教育学部教育心理カウンセリング専修4年:成瀬西)
- ・「アナログ本」の存在感(森野うさぎ)

- ・私たちは電子書籍と電子教科書にどう向き合うべきか(教育学研究科学校臨床心理専修:孕石敏貴)

- ・けやきの窓(英語教育開発センター長/教授:外山昇)

- ・埼玉大学の教育・研究と埼玉大学生生活協同組合(埼玉大学生生活協同組合理事長/経済学部:岡部恒治)

- ・既刊「武蔵野」一覧

8号(2011.4刊)

- ・＜図書館の1年＞
- ・東日本大震災からの復興を願う:原発事

故」が突きつけたもの
(図書館長 坂西友秀)

・知の世界への眩しさ
(日本青年館公益事業部長・業務部長 佛木完)

・大学の猫たち(理工学研究科教授 小松登志子)

・けやきの窓(脳科学融合研究センター長／教授 中井淳一)

・埼玉大学図書館の活動(平成22年4月～平成23年3月)

・既刊「武蔵野」一覧
9号(2011.7刊)

・＜未来を創る－大学から＞

・大学での学びを未来の創造に(図書館長 坂西友秀)

・もしも大学時代に戻れたら(埼玉県立浦和図書館長 小川晴夫)

・大学生生活折り返し地点に立って(理学部 山尾朋末)

・平成23年度新入生向け図書館オリエンテーション(情報サービスチーム 岩崎真美／成田義樹)

・けやきの窓(国際交流センター長／経済学部教授 安藤陽)

・埼玉大学在職30年間を振り返って(人間文化研究機構国立歴史民俗博物館管理部 研究協力課図書係長 小野寺伸)

・お知らせ-図書館の

節電対策について(図書情報課管理チーム 須永博夫)

・2011年度図書館会議委員

・既刊「武蔵野」一覧
10号(2011.11刊)

・「グローバル化」の中の社会と文化(図書館長 坂西友秀)

・週に一度は「参考図書コーナー」タイムを(教養学部准教授 野中進)

・北欧を旅してみてもありのままを大切に生きる国～(福祉施設職員 石田かおり)

・ニューヨーク大学の図書館の紹介(ニューヨーク大学客員研究員／教育学部准教授 清水由紀)

・けやきの窓(教育学部教授 薄井俊二)

・ニューヨークの街角から(ニューヨーク大学客員研究員／教育学部准教授 清水由紀)

・既刊「武蔵野」一覧
11号(2012.3刊)

・＜3.11から1年 一年を振り返り、今を考える＞

・3.11から1年 一年を振り返り、今を考える(図書館長 坂西友秀)

・震災を経て(宮城県山元町・元日本青年団協議会副会長 齋藤緑)

・図書館をより過ごしやすい環境に -「水分

補給」に関するご意見募集- (情報サービスチーム 成田義樹)

・考古学研究会の歩み(考古学研究会 野村友里)

・機関リポジトリSUCRA説明会(情報サービスチーム 岩崎真美)

・けやきの窓(理工学研究科教授 重原孝臣)

・見沼で輝く埼玉大生の個性(教養学部・教養学科3年 鎌田諒)

・見沼たんぼと紙芝居 意外と奥が深い日本特有の文化(経済学部社会環境設計学科4年 澤田茉那美)

・紙芝居『見沼の笛』
・2011年度 図書館活動(図書情報課管理チーム 須永博夫)

・既刊「武蔵野」一覧
12号(2012.7刊)

・＜「日本文化」再考＞

・はじめに一文化の「衣」(図書館長 坂西友秀)

・Does One Size Really Fit All? (英語教育開発センター / Lecturer Richard Sheehan)

・Overcoming Social Inertia in Japan (英語教育開発センター / Assistant Professor Leander S. Hughes)

・平成24年度図書館オリエンテーション(情報サービスチーム 岩崎真美)

・けやきの窓(教育機構教育企画室・准教授 細井優子)

・目録のお仕事(図書情報課管理チーム 安達芳)

・図書館会議の開催(図書館長 坂西友秀)

・2012年度図書館会議委員(図書情報課管理チーム 須永博夫)

・全国国立大学図書館協会総会報告(図書館長 坂西友秀)

13号(2013.2刊)
＜図書館と私＞

・図書館を「主体的な学び」の場に(図書館長 坂西友秀)

・図書館の思い出(テレビ埼玉総務経理部 関口聡美)

・古書の街神保町にて(図書資料係 岩崎真美)

・けやきの窓(教育学研究科臨床心理コース 院生・教員 内田浩子)

・児童書とステレオタイプ・偏見(教育学部 坂西友秀)

・第2回・第3回図書館会議報告

・図書館からのお知らせとお願い—①新入館システム、②図書返却のお願い